

平成27年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	郡上市	学校名	郡上市立石徹白小学校			
校長名	國居正幸	対象学年	全校	人数	6人	
活動名	白山清掃ボランティア (ふるさと石徹白学)	時間数	35時間		継続年数	24年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 ⑥ その他（ ）		[岩魚の飼育と放流] [] [石徹白民踊の伝承] [とうもろこし栽培] [白山清掃ボランティア] []			
複数年継続するための工夫改善	・白山清掃ボランティアでは、石徹白地区外から参加していただけた方のためにしおりを手作りし、A班（登山道清掃）の下山をお迎えしながらお礼を込めてお渡しすることで、主体者としての自覚を深めている。 ・石徹白民踊の伝承では、活動発表の場（本校公表会）や振り返りを大切にすることで、活動に対する意識の変化や自己の変容に気付けるようにしている。					

1 ねらい

- 白山をめぐる自然や歴史の中で、よりよいふるさとをつくろうと白山登山道の清掃ボランティアに親子で参加する活動を通して、地域の一員としての自覚と自然環境保護、社会奉仕の精神を培う。
- ふるさと石徹白学(石徹白民踊・とうもろこし栽培・岩魚の飼育と放流等)に全校で力を合わせて取り組むことを通して、ふるさとを愛し、ふるさとの文化や自然、産業の伝承発展に寄与しようとする姿勢を培う。

2 活動の概要

【白山清掃ボランティア】

今年で24回目を迎えた地域の伝統行事である。主催は石徹白地区公民館で、毎年7月の第4日曜日に開催し、今年は県外からの参加者も含め、A班66名・B班31名の参加となった。A班は石徹白大杉から白山登山をしながらの登山道清掃、銚子ヶ峰周辺でのオオバコ(外来種)除去がメインで、高学年親子と教職員が参加した。B班は登山口の石徹白大杉周辺の清掃やオオバコ除去がメインで、低学年親子と教職員が参加した。

【石徹白民踊・わらべ唄の伝承】

地域に伝わる伝統芸能である石徹白民踊とわらべ唄、総合的な学習の時間に地域講師を招いて全校児童で伝承している。今年の活動発表の場は、地域の敬老会(9月19日)と石徹白小学校公表会(10月23日)とした。本校の学校紹介をしながら、全校6名で石徹白民踊「夜づき」とわらべ唄「正正正月や」を披露した。

【岩魚の飼育と放流】

地元の養魚場より岩魚の稚魚をもらい受け、学校の池にて飼育日記を付けながら大切に育てている。今年は6月に実施した自然体験教室において大きくなった岩魚を石徹白川に放流した。併せてカワゲラウォッチングや講師を招いての体験学習にて、自然環境保護や命の大切さを学んでいる。

【とうもろこし栽培】

毎年、春から夏にかけて地元の産業であるとうもろこし栽培に取り組んでいる。学校の畑にて、とうもろこしを種から育て、間引きや草取り等の世話をしながら地場産業について学んでいる。



3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

【白山清掃ボランティア】

教職員や児童も公民館主事として企画段階から参画し、石徹白地区外から参加していただける方のために記念の手作りしおりを渡している。ボランティア意識の向上と共に、地域行事に対する主体者としての自覚が生まれている。

【石徹白民踊・わらべ唄の伝承】

毎年、保護者や地域の方々から石徹白民踊の活動発表を心待ちにされており、児童にとっても励みになっている。今年も地域の敬老会発表では、お年寄りが涙ながらに感激され、大きな拍手をいただいた。また、三世代交流会でも石徹白民踊やわらべ唄は欠かすことはできず、世代を超えて伝承し続ける郷土自慢は本校が拠点となっている。

【岩魚の飼育と放流】

石徹白地域では自然環境保護を目的に、石徹白川流域はキャッチ&リリース運動が行われている。その一躍を担うのが本校での岩魚の飼育と石徹白川への放流の活動である。児童にとっても、自然環境保護を地域と共に推進する自覚の場となっている。また、この自然体験教室では、夕方からは飯盒炊飯やキャンプファイヤーを企画し、保護者と地域の方々を招待しての地域ぐるみのイベントとなっている。

【とうもろこし栽培】

8月の収穫祭には、保育園や保護者、地域の方と共に収穫を祝っている。また、収穫したとうもろこしは日頃お世話になっている地域講師の方や関係機関に送って喜ばれている。



4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

全国学力・学習状況調査の質問紙において、「地域行事への参加」、「みんなで協力してやり遂げ、うれしかった経験」、「地域や社会をよくするために何をすべきか」等の質問項目すべて100%当てはまるという結果を得ている。石徹白という地域だからこそその郷土愛と言える。PTA行事はほぼ毎回200%（父母とも）の参加や地域ごとの結いの精神など、保護者や地域住民の絶大な支えがあるからこそその子どもたちの姿であり、学校発のスクールコミュニティーの形成である。

『・・・石徹白民踊「夜づき」が終わると、先生方から大きな拍手がわき起こりました。私はこの時、その拍手がとてうれしく、民踊を踊ることがとても楽しいことだと心から思いました。今までは、見ている人に楽しんでもらうために「笑顔」を作っていたのが、私がつ「本当の笑顔」に変わっていました。・・・何百年と、この石徹白民踊が石徹白の伝統として受け継がれてきました。私は今回の発表で石徹白民踊の本当の価値を知ることができました。こんな素晴らしい石徹白民踊の伝承者である祖父を私は誇りに思います。この石徹白民踊を次の世代のために、私は祖父からのバトンをしっかりと受け継ぎたいと思っています。』（6年S子）

『・・・地域の人々と作り上げた運動会は、最高の運動会でした。家族のように誰もが楽しめるあたたかい運動会です。・・・来年は全校で4人になります。そして石徹白小学校の最高学年は5年生の私一人です。正直不安な気持ちもありますが、さみしくはありません。なぜならば、石徹白の地域の皆さんがどんなときでもあたたかい声をかけてくれたり、支えてくれたりしてくださるからです。だからこそ私も、最高学年になる責任をもって行動できるように、今年からいろいろな取り組みをがんばっていきたく思います。石徹白小学校の運動会大好きです。』（4年M子）

